<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>社会科教育法Ⅲ</td><td>教員名</td><td>吉村　功太郎</td><td rowspan="3">免許・資格との関係</td><td>小学校教諭</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td rowspan="2">担当形態</td><td rowspan="2">単独</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td>科目番号</td><td>SID306</td><td rowspan="2">配当年次</td><td rowspan="2">３年後期</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>こども音楽療育士</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２単位</td><td>小幼コース</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>幼保コース</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6">教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（小学校）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める科目区分又は事項等</td><td colspan="6">・各教科の指導法</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">小学校社会科の授業構成（問い－教材－答のサイクルによる目標の達成と評価）の方法や教師の指導のあり方について修得するとともに、具体的な単元の授業構成を、学習指導案として作成することができる。
学習指導案をもとに、模擬授業（マイクロティーチング）を行い、授業実践に必要な基礎的な知識と技能を修得する。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">小学校社会科教育で優れていると評価されている実践や主要な指導理論・方法を取り上げ、その特色と問題点などについて分析研究する。その上で、中学年の地域学習単元、高学年の各領域単元について、それぞれ学習指導案を作成し、模擬授業を行う。グループ毎に授業研究会を行い、発問・助言の仕方，板書の仕方や板書計画について分析し、授業記録・授業分析等の実践的な方法を身に付ける。授業形態は演習とする。アクティブラーニングとして振り返り、レポート等を取り入れる。</td></tr>
<tr><td>ディプロマ・ポリシーとの関係</td><td colspan="6">本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「５.教育実践力を身につけている。」「６.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回：オリエンテーション
社会科教育法Ⅲの趣旨の説明と学習指導要領社会編に示されている各学年の目標、内容、方法と社会科授業づくりの関係を理解する。
第2回：標準的な社会科授業
標準的な社会科授業（北俊夫の実践）を取り上げて、社会科授業の基本的要素（工夫された学習問題や発問・指示、児童の多様な活動によって組織されている学習過程等）を、分析を通して理解する。
第3回：教材の面白さから児童の追究心を引き出す社会科授業
教材の面白さから児童の追究心を引き出す社会科授業（有田和正の実践）を取り上げて、その教材が何故に児童の追究心を引き出すのかを、分析を通して理解する。
第4回：地域教材による社会科授業
地域教材による社会科授業（佐久間勝彦の実践）を取り上げて、地域教材が何故に児童の社会認識を深めるのかを、分析を通して理解する。
第5回：個の社会認識の変容をめざす社会科授業
個の社会認識の変容をめざす社会科授業（長岡文雄の実践）を取り上げて、個の興味・関心から個の社会認識の変容を促す方法について、分析を通して理解する。
第6回：地域学習単元によるワークショップ
グループに分かれ、「地域学習」（第３・４学年）の単元のうち、「社会科教育法Ⅱ」において取り上げて教材研究や開発に取り組んだ単元を選択して、授業過程（授業の流れ）を組織する。
第7回：地域学習単元による学習指導案作成
各グループで作成した授業過程（授業の流れ）を学習指導案に具体化する。
第8回：地域学習単元による模擬授業（マイクロティーチング）
グループの代表による模擬授業（マイクロティーチング）を行う。終了後、相互に評価しあう。</td></tr>
</table>

	（修正後、提出を求める） 第9回：第５学年「国土と産業の学習」によるワークショップ グループに分かれ、「国土と産業の学習」（第５学年）の単元、国土と環境、食料生産、工業生産、情報産業・情報社会の単元のうち、「社会科教育法Ⅱ」において取り上げて教材研究や開発に取り組んだ単元を選択して、授業過程（授業の流れ）を組織する。 第10回：第５学年「国土と産業の学習」による学習指導案の作成 各グループで作成した授業過程（授業の流れ）を学習指導案に具体化する。 第11回：第５学年「国土と産業の学習」による模擬授業（マイクロティーチング） グループの代表による模擬授業（マイクロティーチング）を行う。終了後、相互に評価しあう。（修正後、提出を求める） 第12回：「歴史と政治と国際理解の学習」（第５学年）によるワークショップ グループに分かれ、「歴史と政治と国際理解の学習」（第5学年）の単元のうち、「社会科教育法Ⅱ」において取り上げて教材研究や開発に取り組んだ単元を選択して、授業過程（授業の流れ）を組織する。 第13回：「歴史と政治と国際理解の学習」（第６学年）による学習指導案作成 各グループで作成した授業過程（授業の流れ）を学習指導案に具体化する。 第14回：「歴史と政治と国際理解の学習」（第６学年）による模擬授業（マイクロティーチング） グループの代表による模擬授業（マイクロティーチング）を行う。終了後、相互に評価しあう。（修正後、提出を求める） 第15回：地域学習、第５学年、第６学年における優れた取り組みについての総括的評価 各グループにおける討議・報告と総括的な評価を実施する。 期末試験
学生に対する評価	期末試験６０％、課題レポート４０％で評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。） ・事前学修として、毎回の内容について、事前に教材資料をわたすので、しっかりと目を通し、不明な点等をあらかじめ調べておくこと。 ・事後学修として、毎回の授業後に、内容について自分の言葉でまとめ、他者に説明できるようにする。 ・その他、毎週土日に必ず振返りを行うこと。
テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』
参考書・参考資料等	各社小学校社会科教科書 社会認識教育学会『小学校社会科教育』（学術図書出版）ほか ＊現時点（2018年１月）で新学習指導要領（平成29年版）に対応した大学用テキストが出版されていないため、適宜追加する。
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）